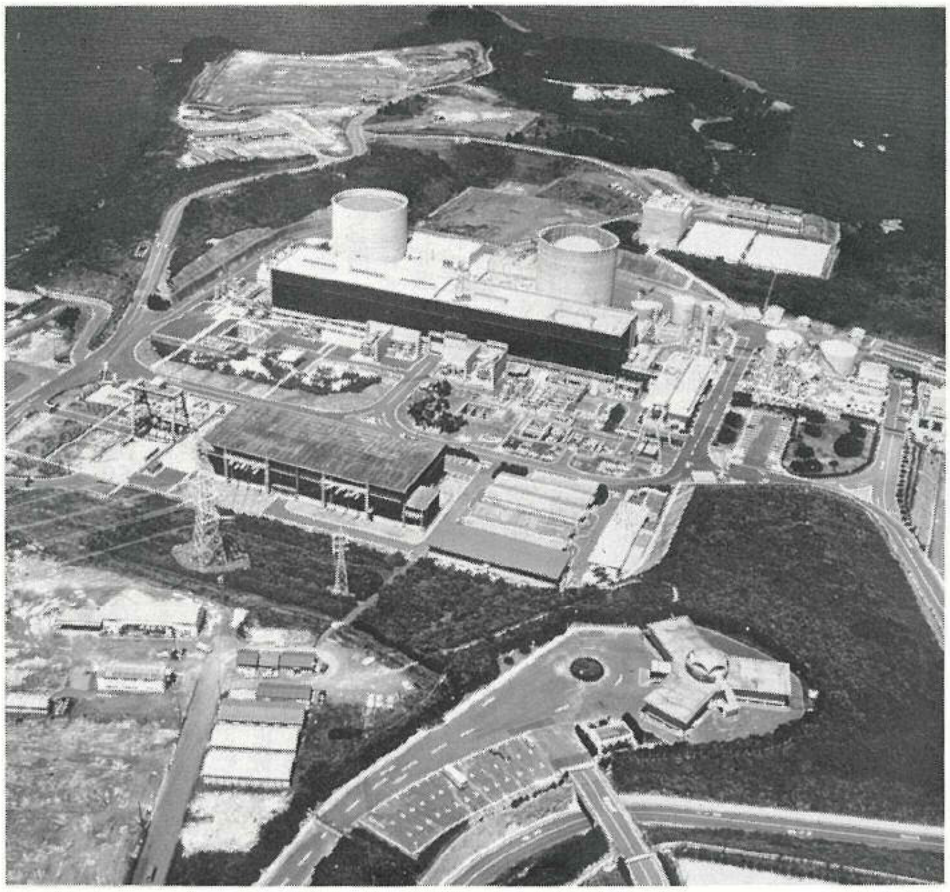
むつごろ



（写真は、九州電力・玄海原子力発電所の全景）

⑧

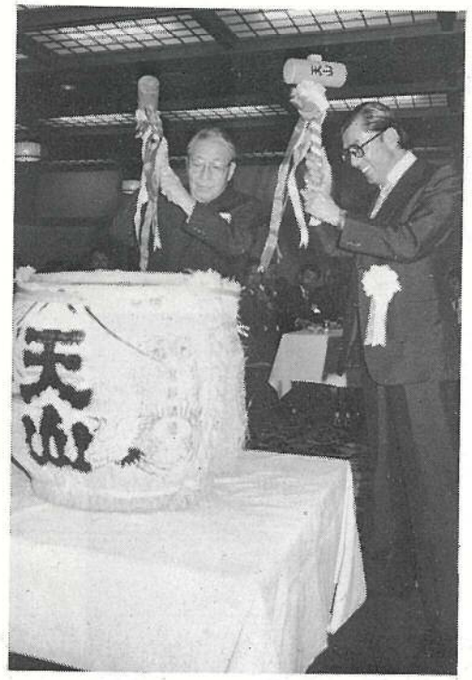
会報むつごろ

昭和 59年10月15日　発行
福岡市佐賀県人会
（発行責任者　溝上　嘉幸）
福岡市中央区天神４丁目1－6
昭和セントラルビル内（〒810）
☎ 092－７６１－８２５３
制作　㈲タナカ製本印刷所
☎ 092－４４１－２５５２

「県人会、ふるさと佐賀の発展にチエと力を出しあいましょう」

非常に楽しく盛況だった　昭和59年福岡市佐賀県人会総会

「おーい、待っとったばい」「おりよーっ、元気やったのまい」――。福岡市佐賀県人会「昭和五十九年度定期総会」は、永倉三郎・名誉会長（九州電力会長）、金子宜嗣・会長（昭和自動車・社長）はじめ米寳・会員約三百人が集まり、七月七日午後一時から「はかた会館」（中央区薬院四丁目）で開き、総会行事のあと、恒例の懇親パーティーもあり、非常に盛況でした



占部・県商工労働部長はじめ佐賀県から出席

会場には、ふるさと佐賀県から占部義弘・佐賀県商工労働部長（香月熊雄・知事代理）、古賀雷四郎、保利耕輔、山下徳夫（代理）各団会議員、宮島剛・佐賀市長、田中稔・佐賀銀行頭取、西村重雄・佐賀新聞社専務取締役（中尾清澄・社長代理）なども駆けつけ、地元の山崎拓・国会議員、進藤一馬・福岡市長の顔もみられて、広いホールもあふれるばかりでした。

まず、金子会長は、「きょうは、佐賀からも大勢の来賓の方たちにご出席いただいて感激しています。ふるさと佐賀県と、いま住んでいる福岡県は、隣県であり、古くから経済・文化・教育の広い分野にわたって親密な交流があり、切っても切れない仲です。また、福岡市営地下鉄の開業―国鉄筑肥線の電化によって、両県の沿線は、ともに発展が大きく期待されています。これからも、ふるさと佐賀県、福岡市佐賀県人会のより一層の発展のために、相互に協力しあい、チエを出しあい、がんばりましょう」と、力強くあいさつ

来賓祝辞のなかで占部商工労働部長は、佐賀県の現状について、「いま、文化立県、流通立県を描いて、農工一体となり県勢浮揚を目指しています。九州各県のうちライバルは熊本県、大分県であり、福岡県とは筑後川を越えて手を結びテクノポリスの実現へ向けて積極的に前進しています。香月知事は、きょうも東京・大阪方面を訪れて企業誘致を働きかけています」と説明しました。

総会行事では、昭和五十八年度の事業報告と収支決算、五十九年度の事業計画および予算について、原案通り可決しました

アトラクションも、にぎやかで、楽しかった

このあと恒例の懇親パーティーにうつり、永倉名誉会長、金子会長が、仲よく木ヅチを振り上げて大酒樽（たる）の「鏡割り」。さっそくビール、日本酒をくみかわし、隣り同士や友人知人たちと、佐賀弁のおしゃべりがはずみました。

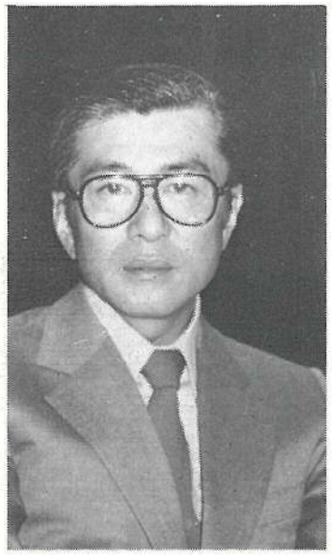
アトラクションでは郷土出身の女性歌手山口広美さん（伊万里市出身）がステージに登場して、新曲「大阪みれん」「弱い女です」などを披露、大きな拍手がわきました。このあと、日本舞踊、豪華賞品の福引もあり、楽しさいっぱいでした。

なお、新しい佐賀県人会役員に、筒井寅吉・副会長（元福岡市助役、佐賀市出身）、久保悦次・常任理事（元福岡県人事委員会事務局長、武雄市出身）、江口伊八・理事（元成富興産重役、佐賀市出身）、を選任しました。吉田正勝・副会長（大分共同火力、小城町出身）、山口徳次・理事（協和不動産鑑定所多久市出身）が勇退されました

写真　（右上）　永倉名誉会長、金子会長の「鏡割り」▽（右下）　佐賀県からも、占部県商工労働部長、西村佐賀新聞社専務取締役の来賓の方たち▽（上）　筒井副会長などの新役員▽（下）　会場いっぱいに盛会でした。

佐賀はいま地域発展意欲が高い観光ツアーに訪れて体験しましょう

福岡市佐賀県人会会長　金子宜嗣



あちこちに祭バヤシが、ひとしお懐しい季節になりました。

会員の皆様には、お元気にすごしていらっしゃいましょうか

暑かったこの夏。干天続きに悩みましたが、佐賀県北部の上場地方では、特産「葉たばこ」が、本畑植え付け初期は低温続きのため例年より生育がおくれていたが、シン止めのあとはこの高温・日照りや雨が少なかったので、葉の充実や乾燥仕上がりもよくて、前年より増収しそう――という嬉しい話もあります。平年よりもいい、「豊作年」だそうです。

また、佐賀県内では、新しい浮揚の動きがみられます。

嘉瀬川ダム（仮称）、城原川ダム（同）、佐賀導水（同）、佐賀東部導水（同）各事業の実現に向けて地元側との話し合い

ニュー・セラミック振興のために積極的な取り組み。観光面では、県内初めての「古湯映画祭」、嘉瀬川畔での「はがくれ祭り」花火大会も意欲的なアイデア。農業面でも、浜玉町「フルーツリフレッシュ運動」は不況の温州ミカンと各種果実類を積極的に取み合わせて増収を図り伊万里市では大粒ブドウ「巨峰」の味わいを生かした「巨峰ワイン」づくりを目指し特産肉牛の「ビフテキ」と組み合わして観光の目玉づくりを描き、多久市でも新品種による日本一のイチゴ産地に挑戦しています。

有名な大分県の「一村一品運動」に追いつき、追い越せの意欲十分です。

これまで、佐賀県は、観光面でみたとき、美しい自然、数多くの名勝史蹟、新鮮な山の幸や海の幸の味覚の魅力がありながらPRべたなのか、全国的な知名度はあと一歩でしたが、いま「佐賀県はおもしろくなっているぞ」といえるのではないでしょうか。

このふるさと佐賀県の地域発展へのダッシュを励ますためにも、観光レジャーには、ぜひ、佐賀を訪れましょう。また、ご家族や知友にもすすめてくださいませんか。

（昭和自動車・社長　唐津市出身）

九産大の新理事に県人会員二人

青木誠・理事長（唐津市出身）
溝上嘉幸・常務理事（白石町出身）

九州産業大学（福岡市）の学園紛争正常化への新しい「カジ取り役」に、九州財界を代表する永倉三郎・九州電力会長（福岡市佐賀県人会・名誉会長）の推薦をうけて、新理事長に青木誠・元九州管区警察局長（71）同県人会員＝、常務理事に溝上嘉幸・ダイヤ空調・取締役会長（68）同＝の佐賀県人コンビが登場しました。県人会員や郷土佐賀県の方たちの暖かいご支援をお願いします。なお、青木理事長は、中村治四郎・初代理事長から第五代目です。

二人は、さる八月二十九日の理事会において選任されました

青木理事長が、就任にあたって「気心を知り合った相談相手がほしい」と、溝上常務理事を補佐役に要望されたものです。

二人の交友のきっかけは、昭和四十五年、青木理事長が綜合警備保障・顧問に、溝上常務理事も同社・参与に、就任したとき。同じ佐賀県人であり、気心も合い、自宅も近いことで、交流が深まりました。

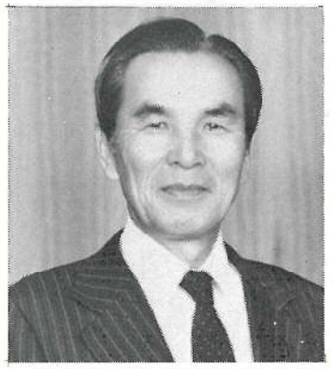
青木理事長は、唐津市原出身旧制唐津中―福岡高―東大法学部卒業。昭和十四年内務省入り四十一年九管局長を定年退職。このあと九州鉄道リネンサービス社長、鉄建建設福岡支店顧問などを経て、唐津市選挙管理委員長（自宅・福岡市飯倉六丁目十五―四十八）

溝上常務理事は、杵島郡白石町久治出身。旧制鹿島中―陸軍士官学校卒業。航空畑を進み、昭和二十年陸軍少佐で終戦。三十六年警察予備隊入り、四十五年陸上自衛隊の陸将補で定年退職。このあと日本生命・本社特別外務顧問、九州技術開発顧問など経てダイヤ空調・取締役会長（自宅・福岡市早良区野芥四丁目七―二）

青木理事長などは、複雑な問題をときほぐすために、毎日、多忙なスケジュールです。

「正常化は、世間（社会）が判断されることであり、私たちは自らを正して、懸命に努力したい」「九産大は、現代社会に役立つ人材養成を目指しています。佐賀県民や父兄の方たちのご支援をお願いします」（青木理事長）と、意欲いっぱいです。

金子宜嗣・会長はじめ佐賀県人会役員もお祝いの言葉を贈りました。



写真は（上）推薦役の永倉三郎・九電会長　（中）青木誠・九産大理事長　（下）溝上嘉幸・同常務理事

未来をひらく安全産業
綜合警備保障株式会社
代表取締役会長　村井　順
顧　　問　溝上　嘉幸（佐賀県白石町出身）
本　　社：東京都港区元赤坂１－６－６　TEL 03－404－1491
福岡支社：福岡市博多区博多駅前３－21－４　TEL 092－471－8061

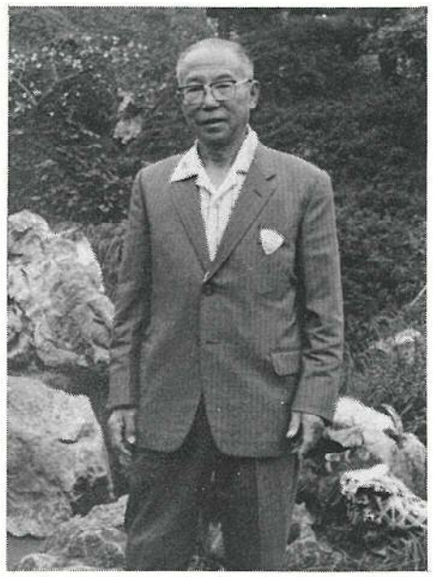
終戦記念日に想う

福岡市佐賀県人会常任理事　坂田文夫さん

さる八月十五日は第三十九回終戦記念日でした。

東京・北の丸公園の日本武道館では、全国戦没者追悼式が営まれて、午前十一時五十分に天皇陛下をお迎えして黙祷をささげ、中曽根首相はじめ多数の閣僚の方たちも参列され、諸行事がつつがなく進められました。

太平洋戦争の末期、各地の激戦地では、想像を絶する戦乱と飢餓地獄でした。年輩の会員の皆様はよくご存知のとおりです。今日のわが国の繁栄の姿をみるとき感慨深いものがあります。



戦前は貿易商社マン

私の生地は、佐賀市の松原神社前の通り、以前は新馬場といったところ。旧制佐賀商業を卒業して、北朝鮮・清津の雑穀貿易商に就職しました。このあと博多、東京に在職十余年を経て昭和十四年に叔父の会社で台湾に本社のある貿易会社に入社しました。

台湾・高雄支店に約五年在勤のあと台北本社に復帰しましたが、戦局はますます険悪になり私たち幹部約五十人は、総督府の命によって一般人、学徒を動員して約五千人の勤労報国隊をつくり、飛行場建設に従事しました。

飛行場設営、召集に

その後、戦況は一段と悪化をたどり、二十歳ぐらいの若者から四十五歳前後の高等官まで動員・召集されたのです。

私も、勤報隊のときは士官級の仕事をやっていましたが、応召されたときは四十歳の一つ星（二等兵）で、馬の世話係でした。

南方の海軍も劣勢になり、ついに内地の広島、長崎への原子爆弾の投下により、前途への見通しは成算を絶たれてしまいました。

台北で終戦を迎えた

このような状況のとき、私たちの軍団は、台北郊外の学校の校舎に宿泊していましたが、昭和二十年八月十五日昼、「全員校庭に集合」の号令があり、しばらくして、「天皇陛下の玉音放送」により、米国に無条件降伏をして戦争を中止する――というお言葉がありました。

この玉音放送を聞いたわれわれ一同は、戦争が終わり、新たな段階に対応しなければならない、日本の将来はどうなるのだろうか――いろいろ感慨深いものがありました。

結局は、国民みんなが、大変な苦労や困難に耐えて、いろいろの曲折を経て、現在の日本に成長し、発展してきました。

サイパンの戦跡に涙

さる昭和四十八年十二月中旬、グァム・サイパン島に戦跡を訪れました。

太平洋戦争に参加して、いろいろの状況を知っている私たちは、労苦をしのび、無念さを想いました。サイパン島の戦跡にある慰霊碑の前では、涙を禁じえませんでした。

そのとき、断がいから子供を胸に抱いて飛び降りた母親たち子供たち、娘たちの多数のみ霊の号泣を感じました。

世界は、いまも、これからも発展を続けていますが、人びとが、みんな平和に、幸福であるようにありたいものです。

（坂田電器商会・代表　佐賀市出身）

「草むすかばね」。グァム島で、米戦車の直撃弾をうけて、破壊され、戦跡に残る旧日本陸軍の九五式戦車

東公園の銅像物語り　(完)

七十七年目に銅像のお身拭き式
鋳造日誌が吉井町でみつかった

見事に美しい仕上げ
お身拭きでさっぱり

「日蓮上人」銅像（東区東公園）は、昭和五十四年六月十七日――建立七十五年目に初めて銅像内部の調査がされました。調査にあたったのは、中牟田佳彰・佐賀大学助教授などでしたが、「組み立て方法はボルト締めだが、七十五年たっているのに、外部からは接合部分のスジ目もわからず、表面にも、ほとんど〝膏あれ〟がみられない」見事な仕上げぶりで、専門家を感心させました。

この理由は、鋳造工法の精密さもですが、鋳造面を切下（きさげ＝スクレーパー）で入念に削りあわせて、さらに仕上げ砥石を使いつるつるに磨き上げられているためです。

台座下のレリーフ板七枚をみても、よく理解できます。

また、建立七十七年目（古希にあたる）の五十七年十一月には、初めての「お身拭き式」も行われました。

全体がくまなく洗い清められました。

日蓮上人も、久しぶりにサッパリした気分になられたことでしょう。

太宰府で鋳造日誌を
発見、こまかな記録

日蓮上人銅像については、貴重な資料である谷口鉄工所の「日蓮上人銅像鋳造日誌」も発見されています。

この原本は、浮羽郡吉井町「本仏寺」境内に移築された、「都府楼庵」の棚の中にあるのがみつかりました。

どうして、こんな場所にあったのかわかりませんが、銅像の落成記念に、日誌を清書して、日蓮上人銅像に供えられたことだけはわかりました。

この日誌には、銅像鋳造に関連した人たち、鋳造当日のお天気、仕上がりの感激、使用した銅量、残量などが詳細に記載されています。

これは写真に複写して、千葉県松戸市三矢小台二丁目四―一谷口健八さん（第十二代谷口清八氏の四男）に届けられました複写フィルムは、佐賀大学に貸したところ、約半分が紛失しているそうです。

『日誌複写本』は谷口家
の菩提寺にも一部送る

私（竹内）は、谷口健八さんにお願いして日誌複写本を借りてコピーしました。

谷口さんの依頼もあって、うち一部は、谷口家の菩提寺「泰教寺」（佐賀市長瀬町）に送りとどけました。この日誌複写本は、谷口家の子孫たちに、先祖の素晴らしい業績を語り伝えてくれるでしょう。

松戸市に住む谷口家
の子孫は金剛流師範

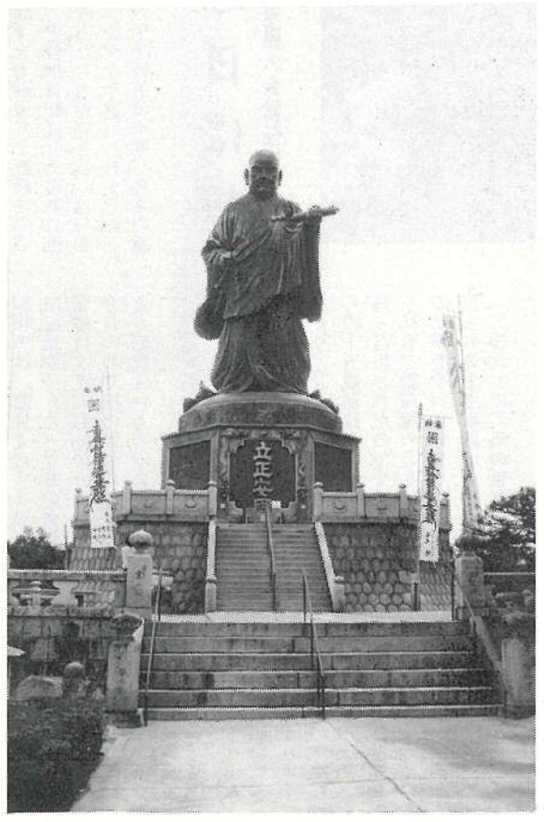
谷口さんからの手紙には、日蓮上人銅像台座の周囲に建っている石柱三十本のうち、東側の四本目―十一本目には、一本に一人づつ谷口家一族――祖父母父母、兄弟の名前が彫ってあるが自分の名前だけは彫られていない。この理由は、銅像建立の半年後、明治三十八年六月に生まれたため――と書いてありました。

谷口健八さんは、佐賀市長瀬町生まれ。日新小―佐賀中―佐賀高―東京帝大工学部を卒業。三菱重工の常務取締役造船部長を経て、原子力関係、三菱化工機・顧問などをされていました

いまは、金剛流師範として仕舞いなどを教えておられます。

（完）

執筆は福岡市中央区今泉二丁目四―三一―七〇二　武内良次さん（佐賀市六座町出身）



写真は、はるか玄海をむく日蓮上人の銅像（東公園）

さがの昔ばし

豪僧冷岩が捕えたカミナリに、地下の清水を探させた

三田川町箱川　妙雲寺

ポルトガル船が種子島に漂着して鉄砲を伝えた前年――天文十一年（1542）夏のこと、いまの神崎郡三田川町箱川にある妙雲寺の第二代住職冷岩（玄波）が庭掃除をしているとき、夕立になり、突然、「バリバリドーン」と稲光りして、前庭の大クスノキが裂けました。

豪胆な冷岩和尚は、すたすたとクスノキに歩み寄り、落雷したとき打った腰をさすり、空へ逃げ去ろうとしていたカミナリをみつけ、「コラーッ、逃がさんゾーッ」。気合いもろとも、手にしたホウキで押さえ込みました。

カミナリは、逃げようともがくのですが、冷岩和尚の法力にはかないません。ついに、「助けてください」。涙を流して許しをもとめました。

「しかし、この手をゆるめると逃げてしまうだろう。大きな音でひとをおどかして、悪いやつだ」。冷岩和尚は、さらに、ホウキに力をこめました。

「いえいえ和尚さま。あなたの申し付けはなんでもききますどうか許してください」。カミナリは、平身低頭して許しを訴えました。

こういうと、雲を呼び、空のかなたに逃げさりました。

カミナリの水占いで
きれいな水がわいた

カミナリの「水占い」を聞いた冷岩和尚は、さっそく寺の小僧たちを集めて、クスノキの根元を掘ったところ、きれいな清水がたっぷり、わいて出ました

この、「おいしい清水」はたちまち評判を呼んで、周辺の人たちがいっぱい水もらいにやってきて、井戸は「箱川の清水場」として有名になりました。

また、カミナリに清水探しをさせた冷岩和尚のことも名高くなり、修行僧の訪れも数多くなり、妙雲寺も非常に栄えたそうです。

六十年前に枯れてし
まった箱川の清水場

「箱川の清水場」は、現在の同寺入り口にある小川の東側一帯。約六十年前まで、きれいな清水がわいていたそうです。のち、近くに住む人が井戸を掘ってから水脈が枯れたといいます大きく茂って、夏は冷しい日陰をつくっていたクスノキも伐られて根株も残っていません。

この一角と推定されるところに、小さな石仏の姿をみかけました。

住職家族の話では、「かっては、佐賀鍋島藩主の帰依も厚くて、格式も高く、名僧が多く出た」由緒ある寺といいます。

カミナリに「地下の
清水」を探せと命令

カミナリの必死の表情をみた冷岩和尚は、さっそく、こう命じました。

「カミナリよ、このあたりは昔から良い水が出ない。洗い物すると黄ばむし、ご飯も黒くなるし、困っているのじゃ。きれいな清水の出るところを教えてくれるならば、許してやろう」

「わかりました。お安いご用です。いつも、雲に乗って下界を眺めているので、地面の下を流れる水（地下水）のこともよくわかります。きれいな水のあるところからは、とても、かぐわしいにおいがします」

「きょうも、この上を雲に乗って通りかかると、いい水のにおいがしたので、少し飲んでみようと思い、降りてきたところでした」

――カミナリは、こういってしばらく周囲を見回していましたが、ついに、指さしました。

「あそこです。あの大クスノキの根元のところを掘ってください。必ず、きれいな清水がわき出します」

（上）は三田町箱川の妙雲寺
（下）はかって「清水場」があったあたり

ふるさとの首長

民間企業の首脳として活躍したフレッシュ町長

浜玉町　町長
常吉太門さん

さる九月二日、町長選挙に初当選したばかり。

同町浜崎東の出身。旧制唐津中―中央大を卒業。二十八年に日本勧業角丸証券入り。同社東部第一区長（役員格）を経て、五十八年一月に前田証券（福岡市）専務取締役を退社、帰郷しました。

佐賀県内の市町村長では、異色の経歴の持ち主。また、父親常吉太郎さん（昭和二十二年没）は、浜崎町長四期、県議としても活躍しました。

浜玉町は、基幹作目のひとつミカンの慢性不況からの脱皮を目指して果実の特産地づくり「フルーツ・リフレッシュ運動」と積極的に取り組んでいます。

常吉町長は、これからの抱負のなかで、「町経済の浮揚」を強調。「農家の経営安定のために、農協の人たちとも対話を重ねたい。農産物をもっと売り込む方法についても、ともに考えたい」など積極的な町政展開を描いています。

長らく日本経済の第一線をみてきた広い視野、手腕が期待されています。

佐賀県人会にひとこと　浜玉町は、ミカンと組み合わせた各種果樹の振興、豊富な名勝史蹟を生かした観光開発を進めています。ぜひ、美しい自然の魅力を満喫においでください。

年商10億以上427人
佐賀県出身の社長さん

佐賀県出身で、年商十億円を超す企業経営者は全国三十二都道府県に四百二十七人います―。佐賀県中小企業情報センターがまとめた県外人材調べのデータです。

この調査は、五十九年三月末現在で、四百二十七人のうち、地域別では東京百二十七人（三〇％）、福岡百十五人（二七％）、大阪四十三人（一〇％）、長崎三十六人（八％）、愛知十八人（四％）――という順。北海道にも八人。沖縄・島根・山形など十四県はゼロでした。

業種別でみると、卸売業百四十六人（三四％）、製造業百十人（二六％）、小売業四十七人（十一％）、サービス業四十一人（一〇％）、建設業四十人（九％）――卸・小売・サービス関係が五割以上を占めました。

最高齢は八十八歳（長崎県）―最年少は三十六歳。大正生まれ二百十八人（五一％）、昭和生まれ百七十二人（四十％）で戦後生まれも七人。男女別では、男性四百十九人（九八％）、女性八人（二％）でした。

県中小企業情報センターでは「この調査は、県内企業の技術開発、業務提携、商談促進に役立てたい」意向です。

有料道路になりました
建設中の三瀬トンネル

背振山腹を抜けて佐賀県―福岡市を結ぶ公共事業「三瀬トンネル」工事は、有料道路事業に切り替えて昭和六十一年九月開通を目標に描き、急ピッチで取り組んでいます。

同トンネルは、計画延長二千四百七㍍（うち佐賀県側一千百六十七㍍、福岡市側一千二百四十㍍）。五十六年十月から着工して、計画事業費八十四億円。ことし前半期まで約五十％を完成

だが国の財政事情悪化のために予算確保の困難性を見越して「県道路公社」（理事長・香月熊雄知事）が主体となって有料道路事業にスイッチ。財源は四十六億円のうち、国三五％・県二五％の無利子融資、民間金融機関・公営企業金融公庫から各二〇％の低利融資の計画です。

（写直は、工事進む「三瀬トンネル」）

開通すると、三瀬峠のカーブ約四十個所を通らず距離も三・四キロ（現五キロ）になります。

献血協力の人たち表彰
佐賀県　8人・13団体

「第三回献血推進佐賀県民の集い」（佐賀県・日赤佐賀県支部主催）で、献血推進に功労があった八個人、十三団体・事業所に各種表彰や感謝状贈呈がありました。

献血は、貴重な生命を守る大切なものです。昭和五十八年度は、県内で延べ五万九千六百九十九人が献血。県民百人当たり六・七人。全国平均六・五人より高率。史上最高でした。

〔厚生大臣感謝状〕（敬称略）平石幸作（前県立血液センター所長）▽佐賀青年会議所▽三日月町役場▽嬉野商高▽日本オイルシール

〔知事感謝状〕（同）佐賀女子高▽松尾建設▽西九州大学▽多久市消防団▽北茂安町役場▽唐津商高▽伊万里市役所▽九州住電精密▽太良町

〔日赤功労者（五十回以上献血）〕（同）木下定国（佐賀市）▽森哲郎（同）▽原英彦（武雄市）〔献血ポスター〕県知事賞＝朝里利文（有田町）▽日赤県支部長賞＝行武朋子（白石高二年）、川崎直広（白石中二年）、長瀬隆一郎（新栄小六年）

活躍する佐賀県人たち

食用油づくりのキャップ趣味はコーラスとバレー

理研農産化工
福岡工場・製造課長
古川雅夫さん（36）

昭和五十六年一月、東区箱崎埠頭に進出した同社福岡工場・食用油製造部門のキャップ役。

「製造プラントは新鋭機ばかりでして、故障したときなどは〝なんとかできるさ〟とじっくり構えて、考えれば、解決できるものです」。ヤル気の持ち主らしい。

佐賀市北川副町木原の出身。佐賀北高―九州産業大学工学部を卒業、四十六年四月に入社しました。「佐賀で働ける企業を探していたところ、ここに先輩の友人が働いていて、すすめられたこともあり決めました。当初は、製品テストや研究をしていましたが、五十五年冬、福岡工場の試運転開始にあわせて、福岡工場に転勤しました。

趣味はバレーボール（高校時代）、「佐賀のNHK混声合唱団に加わっていたこともあります」。パートはバス。ちょっと意外な素顔といったところです

福岡工場には、同じコーラス経験の仲間も二人いて、「福岡市内に、いいコーラスグループを探しています」。どなたか、心当たりの方は教えてあげてください。

福岡工場は、東区箱崎埠頭六丁目五―三にあり、博多湾の眺めはダイナミックでした。

唐津神社の秋祭り（唐津くんち）（唐津市）は、十一月二日―四日まで三日間、名物の豪華な曳山十四台が、市内をねり回り、にぎわいます。

曳山は、文政年間（百六十年前）、地元の石崎嘉兵衛たちが祇園山鉾（京都）を見て、始めたものと伝えます。

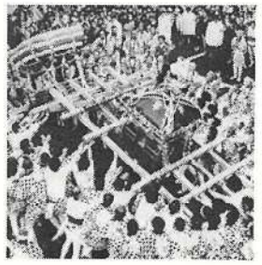
唐津くんちと曳山

この曳山は、和紙を重ねて張り、ウルシ、金、銀を塗り、美しく飾ったものです。国の重要文化財の指定をうけています。

フランス、アメリカなど海外にも渡り、目を見張らせました。

期間中、全国からの人出三十万人を見込んでいます。

唐津市の名物は、「唐津焼」「松露饅頭」「松原おこし」や新鮮な海の幸も有名です。



日本三大ケンカ祭りの一つ「伊万里トンテントン祭り」（伊万里市）は、十月二十二日―二十四日まで三日間、「ミコシ」（香橋神社）と「ダンジリ」（戸渡島神社）が、市内の目抜き通が活躍した「南北朝の争い」が起源といいます。

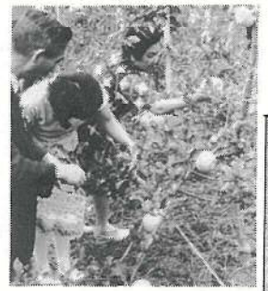
同市では期間中、約二十五万

伊万里トンテントン

――クラウン・ソアラ・カリーナの――
福岡トヨタ自動車
本社　福岡市中央区渡辺通4丁目9―23
でんわ092（761）3331
渡辺通ショールーム　でんわ092（771）5511

佐賀県だより　NEWS FROM SAGA　佐賀県だより

浜玉町に、県初のリンゴ団地



東松浦郡浜玉町古瀬地区では昭和五十七年から農家二十戸が樹園地五・五㌶に苗木六千本を植えて、リンゴ団地づくりに取り組んでいましたが、この夏、約六㌧のリンゴを出荷しました。

同地区は、標高二百㍍以上の山間部。温州ミカンの生育に好ましくないので、松浦東部農協の指導をうけ、作目転換しました。

樹種は、「つがる」「ネロ2号」ですが、ブランド銘柄は一般公募により「御滝（みたき）」に決まりました。同町の名勝「猪掘りの滝」にちなんだものです。

リンゴ団地は、佐賀県で初めて。将来は年産百五十㌧。リンゴ狩りなども計画しています。

城原川ダム構想を説明
計画貯水1600万㌧

建設省・佐賀県は、九月十二日、神崎町と同町議会に対して、城原川上流に計画している「城原川ダム」（総貯水量千六百万㌧）の建設基本構想を説明、調査に協力を求めました。同ダムは、佐賀平野東部の「水がめ」づくり。四十八年に計画発表から十一年ぶりの具体的な動きです。

同ダム問題は、これまで対策委員会（野中弘海委員長、二十二人）を窓口に交渉。七月下旬同対策委の調査受け入れ意向に対応するものです。

城原川ダムは、四十九年閣議決定した筑後川総合開発プランの多目的ダムの一つ。

計画は、堤長五百二十㍍（堤高九十八㍍）集水面積四十二・五平方㌔。洪水調節、流量調整や佐賀市と周辺市町村に都市用水の供給を行います。

完成目標は六十七年度。総事業費約二百四十億円（四十八年度試算）となっています。

県内初のスポーツプラザ
リョーユー 佐賀市末広一に

糧友グループ（北村政男社長・大野城市）の総合スポーツセンター「リョーユースポーツプラザ」は、十月二十五日に佐賀市末広一丁目旧国道34号沿いに開設します。

敷地四千百九十平方㍍。三階建て屋内運動施設には、二十五㍍プール（六コース）、テニスコート（三面）、ラケットボールコート（二面）、アスレチックジム、男女サウナ、軽食レストランなど完備。ドウ・スポーツプラザ（東京）のノウハウを導入しています。総事業費12億一千万円。

総合スポーツ施設は、県内初めて。会員制、一般スクール制の二本建てで運営します。

佐賀・楠公社が来年六百五十年祭に記念行事

龍造寺八幡宮（佐賀市）は、大楠公六百五十年祭（昭和六十年五月二十五日執行）、八幡宮八百年式年大祭（同六十二年秋）を迎えることになり同奉賛会会長＝田中稔・佐賀銀行頭取）を設けて社殿や社務所改築などの記念事業の構想を描いて、資金づくりに取り組んでいます。

同八幡宮は、文治三年（1187）龍造寺の居城に鶴ヶ岡八幡宮（鎌倉）の分霊を祭り、慶長十二年鍋島勝茂公が現在地に遷座しました。

境内にある楠神社は、寛文三年（1663）、鍋島光茂公など家中の喜捨により創建。楠公父子を祭る神社では湊川神社（神戸）より古い神社です。

ニュー・セラの活性化
県地域技術推進委発足

通産省指定「地域フロンティア技術開発事業」の中核組織である「県地域技術活性化事業推進委員会」が、新発足しました。

同事業は、有田地区を中心とする伝統窯業技術を生かし、ニューセラミックス技術の開発を進めて、地場企業に応用、活性化が目的です。

五十九年度から三年計画、約五億円の事業費（うち国庫補助三分の一）

（委員）（敬称略）　松田広作（佐大教授）▽石橋彰（同）▽加藤昭夫（九大教授）▽小林秀樹（福岡通産局商工部長）▽小林和夫（九工試材料開発部長）▽深川正（香蘭社社長）

西山泰雄（共立製磁社長）▽岩尾熙（有田ニューセラミックス研究会長）▽山口秀市（大有田焼振興協組理事長）▽田中辰美（佐賀県機械金属工業会連合会長）▽青木類次（有田町長）▽占部義弘（県商工労働部長）▽古賀礼三（県窯業試験場長）▽石橋一雄（県工業試験場長）

（参加企業）　岩尾磁器工業（有田町）▽久保田稔製陶所（西有田町）▽藤津碍子（鹿島市）▽末村窯業（有田町）▽東洋空機製作所（中原町）▽田中鉄工（基山町）

佐賀県だより　NEWS FROM SAGA　佐賀県だより

「小城羊羹資料館」を開設
小城町の村岡総本舗に

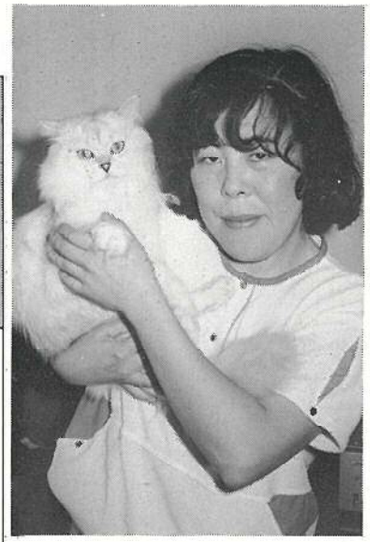
村岡総本舗（村岡安夫社長）は、小城郡小城町上町の本店横に、県内初めての「羊羹資料館」を開設しました。

同資料館は、同店施設を改装したもので、「みなさんに、もっと、小城羊羹について知っていただきたい」というものです。

二階は、小城羊羹の商標、各種の製造器具、製造工程の解説をわかりやすく展示しています。とくに、故鈴田照次さん（染色作家）の作品「羊羹手づくりの図」が評判です。

一階には、お菓子の年表も展示。広い休憩サロンもあります。入館は無料。ご利用ください。

「菊千代」より芸上手
山口広美さんのネコ君



博多区住吉二丁目、山口広美さん(32)＝伊万里市出身＝が飼っているペルシャ種ネコ「チヨコ」（五歳ぐらい）は、いわれるように、「お手」「ちんちん」「おねんね」をやってみせて有名な赤塚不二夫のネコ「菊千代」も顔まけの芸達者です。福岡市「市民だより」にも紹介されて有名です。

山口さんは、女性歌手で、このほど新曲「大阪みれん」（ポリドール）を吹き込み、市内の有線放送でも上昇中。佐賀県人会定期総会のアトラクションで歌いました。西中洲でスナックを経営して、修獣館高定時制三年で勉強にもがんばってます。

鳥の種類が減っています
有明海　佐大生研の調査

佐賀大学生物研究会（佐賀市）は、有明海の野鳥生息状況調査を行い、ことし九年目ですが、年ごとに種類が減り、「どんな理由のためだろうか、詳しく調べたい」と心配そうです。

この野鳥生息状況調査は、昭和五十一年、有明海沿岸十一地点で始めました。五十四年から国造干拓（同郡東与賀町）、干拓（杵島郡有明町）三地点で毎月三回、望遠鏡をすえて、干満時の干潟に飛んでくる野鳥の種類、数を調べています。

このほど刊行した会報「佐賀の生物」に掲載した調査報告によると、五十四年八十五種類、五十五年七十種類、五十六年六十九種類、五十七年五十九種類と下降。とくにスズメ目、チドリ目の減少が目立つそうです。

干拓堤防のコンクリート補強クリークの護岸工事、干拓の農地化により、すみかの茂みが減ったり、エサが少なくなったのが理由とも考えられるそうです。

県内の最高齢は百四歳
牛津町　宮本ヨシさん

佐賀県内の最高齢者は、宮本ヨシさん（小城郡牛津町江津）でした。明治十三年三月一日生まれ、満百四歳です。

熊本県玉名郡長州町の出身。昨年、夫の甚太郎さんがなくなり、長女夫婦と三人暮らし。百歳のとき、目の手術をうけ片方不自由ですが、いたって健康です。

ことし（敬老の日）には香月熊雄・知事に、羽毛布団をプレゼントされました。

都々逸（どどいつ）も好きでたまに、杯半分ぐらいワインを口にすることもあります。にこやかなおばあさんです。

また、男性の最高齢者は鳥栖市鎗田町、村山金太郎さん。百三歳です。古藤浩・出納長が自宅を訪れて、長寿を祝いました。

トップグレードＳＥをさらにクオリティ・アップ　クラスを超えた新豪華仕様。
カローラ
新1500SEサルーン
セリカ・カムリ・カローラ・カローラⅡ・タウンエース福岡県総販売店
信用で売る店
トヨタカローラ福岡株式会社
本社
福岡市中央区長浜2丁目1番5号　☎092-712-7111（大代表）

新会員ご紹介

（敬称略―氏名、連絡先・電話番号、職業、出身地の順）

〔会員〕

（アの部）

秋山　重徳　[redacted]▽福岡銀行福重支店▽佐賀市

（キの部）

木寺　金次　[redacted]▽東光計測機器製作所▽有田町

（コの部）

河野　治幸　[redacted]▽せらび▽唐津市

（タの部）

田島　敏子　[redacted]▽主婦▽有明町

武森　幸子　[redacted]▽バー「直子」▽佐賀市

（ハの部）

波多野　道子　[redacted]▽――▽佐賀市

林　良香　[redacted]▽住宅都市整備公団九州支社▽唐津市

馬場　和彦　[redacted]▽佐賀銀行福岡地区本部▽武雄市

（フの部）

藤瀬　英晴　[redacted]佐賀銀行野間支店▽佐賀市

（ミの部）

水辺　紘治　[redacted]▽福岡銀行▽有田町

宮崎　常一郎　[redacted]・宮崎運送▽玄海町

（モの部）

森光　利之　[redacted]▽モリミツ▽北茂安町

森本　正敏　[redacted]▽佐賀銀行野間支店▽嬉野町

（ヤの部）

八田　一三　[redacted]▽八田設計事務所▽武雄市

佐賀県人の動き

青木　誠　九州産業大学・理事長（八月二十九日付け）▽唐津市選挙管理委員長▽[redacted]▽唐津市出身

溝上　嘉幸　九州産業大学・常務理事（八月二十九日付け）▽ダイヤ空調・取締役会長▽[redacted]▽白石町出身

筒井　寅吉　福岡市佐賀県人会・副会長▽博多港開発・代表取締役副社長▽[redacted]▽佐賀市出身

久保　悦次　福岡市佐賀県人会・常任理事▽元福岡県人事委員会・事務局長▽[redacted]▽武雄市出身

江口　伊八　福岡市佐賀県人会・理事▽元成富興産重役▽[redacted]▽佐賀市出身

波多　信行　福岡市佐賀県人会事務局担当理事は、昭和商事石油・総務課長―昭和西濃運輸・総務部長に▽[redacted]▽唐津市出身

江頭　清次郎　福岡市佐賀県人会・事務局担当理事▽セントラル石油販売・営業部長▽[redacted]▽唐津市出身

会員の作品をお　まちしています　会報紙面で の相互交流をしましょう。

創作、随想、釣り自慢、レジャー紀行文、短歌、俳句、子供たちの作品、サークルの仲間づくり――なんでも歓迎します。

絵画、書、造形作品などは写真をお送りください。

投稿作品には、テーマと住所・氏名・年齢・職業（学校・学年）・出身地を記入して、お送りください。

あて先は　〒八一〇福岡市中央区天神四丁目一―六、昭和セントラルビル、県人会事務局

編集デスク

この会報制作について、佐賀新聞社から記事、写真の提供をうけました

（広報委員会）

会員・支部の動向をご連絡ください　人事異動や慶弔行事、親ぼくの集い――いろいろあっていることだと思います。

掲載期日が、おくれるので、ご不満はあるかと思いますが、会員相互の消息を知りあうためにも、ぜひ、連絡ください。

また、地元や職場でおもしろいニュースがあったときも、お知らせください。楽しい紙面づくりのためにご協力をお願いいたします。

このほか、ふるさと佐賀県について、「こんなことが知りたい」という希望も事務局までご一報ください。紙面に特集いたします。

「むつごろ」の広告欄をご利用ください　広告スペース一回の広告料金はつぎの通り。

（全一段分）　幅十五㌢×高さ四㌢以内（二万円）

（一段二分の一）　幅七・四㌢×高さ四㌢以内（一万円）

（一段四分の一）　幅三・六㌢×高さ四㌢以内（五千円）

県人会報「むつごろ」は年四回発行しています。

広告掲載ご希望の方は、お早めにご連絡ください。なお、勝手ですが、掲載位置については事務局におまかせください。

問合先は、〒八一〇福岡市中央区天神四丁目一―六昭和セントラルビル、佐賀県人会事務局